

木耐協 技術通信

2003年
2月号

技術的なご質問・ご相談などは・・・

- 組合員専用ホームページ「安斎先生への質問コーナー」よりお気軽にお問い合わせ下さい
 - 直接お電話でのご相談の場合は、木耐協事務局まで。
- 毎週金曜日 9:00～18:00 TEL:048-224-8316

監修：日本木造住宅耐震補強事業者協同組合 技術顧問 安斎正弘 TEL：03-5549-2115 FAX：03-5549-2125



梅の便りも聴かれるこの頃、そして花粉症が話題に上る季節、如何お過ごしですか？先月の全国大会に引き続き、つい先日皆様のご協力のもと無事に総会が終わりました。事務局の皆様お疲れ様でした。さて今月からいつもの学習モードで皆様へ情報をお伝えの予定でしたが、急遽皆様へのご理解・ご協力を頂きたく少々苦言を述べさせていただきたいと思えます。

去る1月17日・2月7日のNHK放映の影響か、事務局はおおわらわの毎日が続いています。大変喜ばしいことです。しかし、一方で慢性的に困っていることがあります。その一つは、皆さんから送られてくる「現地調査票」の問題です。診断業務を直接手掛けるオペレーターの皆さんが診断を実施するに当っては当然、「現地調査票」・「建物平面図」を良く読み取る作業が欠かせません。しかしこの2つの書類を読んでもそのまま診断ができない。という事態が非常に多いのです。

①「現地調査票」は第3者が容易に把握できる様、明確に記入すること。つまり「記入漏れ」をなくすことです。

②「建物平面図」はもっと丁寧に表現すること。

オペレーターの皆さんは組合員の皆さんと違い、現地を見ていません。上記の2つのデータのみが唯一の情報なのです。不明な点を確認するため、TELを使います。電話代も馬鹿になりませんが、何よりも時間のムダです。このムダをなくす為、

(1) まず第一に、図面を正確に描くこと。

①各階の床面積が判断出来ないようなデタラメな図面を描くな！（目盛をしっかりと守り、半端な寸法ヶ所はしっかり記入せよ！外壁ラインを確定せよ！）

②2階の載っている位置が判るようにせよ！（不明な図面が多すぎるゾ！1階図面に2階の外壁ラインを点線で記入するのも一つの方法！）

③（耐力）壁の長さを正確に表せ！（目盛を無視した壁長は、入力時にオペレーターを悩ます！）

④現地調査表にて表現できない部分は図面に描き込め！（図面は手紙なのだ。相手に通じるように表現せよ！）

⑤図面は正確なだけでなくキレイ・丁寧が大事だ！（壁線は太くはっきりとメリハリをつけろ！文字は読みやすく書け！FAXでかすれるような字は書くな！なぐり書きはやめろ！）

(2) 次にFAX送信前にいま一度、チェックを！（伝えるべき事柄が全て表現できているか？を再確認せよ！）

とにかく、こんなつまらないことで、事務局の担当員は時間との戦いの中で電話確認を余儀なくされ、1回で済めばともかく、2度3度の電話になることもままある。こんなことは大人社会のすることではない。現場を知らない（見ていない）オペレーター達が確実に入力でき、スムーズに診断書を完成させられるよう、皆さんの一層の努力と協力を望みます。いつも正確な情報を下さる方々にはご迷惑な話で申し訳ありませんが、あまりのことに顧問の立場からの苦言、ご理解ください。

さて苦言ついでにもうひとつ、小生への相談・質問のこと。（以下、質問という）

質問は大歓迎です。ただその為には皆さんに心掛けて欲しいことがいくつかあります。

①質問の趣旨がわかりにくい。（何をするのに、何が解らず困っているの？どうしたいの？）

②多くの場合質問に答えるには、小生からの逆質問があります。（情報を知る必要性から）

③小生も現地を見てない訳ですから、言葉（TEL）だけでは困難な場合があります。

これらの点から、即答できないことも当然あります。また内容によっては数日から数週間要する場合があります。従って、基本的には電話による質問の前に、「質問要旨」・「図面・スケッチ・写真」・「建物仕様」・「地盤データ」等を送って欲しいのです。（詳しい情報がないと、小生の判断に誤りを生ずる危惧があります！）。数日・数週間かかるような質問の場合は、自宅へ持ちかえり本業（構造設計）の合間に検討・設計作業をすることになりますので、予めご了承ください。

前段・後段の話とも大事なものは、「相手の立場」を考え、可能なかぎりの努力を実践していただきたい。ということです。同じ目的で集まった仲間です。互いに気持ち良く崇高な事業を実現してまいりましょう！ネ！

次号こそ、勉強をはじめよう！